
過保護なお父さん

蒼衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過保護なお父さん

【Nコード】

N2337T

【作者名】

蒼衣

【あらすじ】

これはpixivに投稿した自分の小説に、修正を加えたものです。

(前書き)

こんなお父さんは、嫌です。

わたしの名前は美羽。

やっと小学5年生になったばかりの女の子だよ！

なんとなくありがちな自己紹介から始めてみたよ！

逆にありがちなものを使って自己紹介をするなんて、わたしは一足先に流行が進んでるね！

さて、簡単な自己紹介が終わったところで。

そんなわたしの今一番の悩みは、お父さんが超が付くほどに過保護なことです。

わたしが三歳くらいの時、わたしのお母さんは死んでしまいました。原因はガン。当時まだ小さかったわたしをお父さんは男手一つで育てていくことになりました。今までわたしをここまで大きく育ててくれたお父さんには、とても感謝をしています。

でもね、過保護なんです。

とにかく嫌になる程、過保護なんです。

例えばこんなことがありました。わたしが足をひよいと伸ばせば届く距離しかない小さな水たまりの前に来た時、普通に飛び越えようとしてました。そこにお父さんが「美羽ちゃん、ストオーツプッ！」「と割り込んできました。「美羽ちゃん、ここを飛び越えるなんて危ないよ！そんな危険なこと、お父さんはさせられない！」と悲痛そうな顔で叫び、「はい、ここを通りなさい！」「と、水たまりの上にブリッジを作りました。その時は、わたしが小学校から徒歩でお父さんと帰っているという時間帯で、当然道の人通りは多いです。通行人がいるのに脇目もふらずお父さんが突然そんな行動をとったので、周囲の人たちがみなぎょとした顔をして、あの人危ないわよ的な会話をコソコソして逃げるようにさっといなくなってしまっ

たのが、非常に痛々しかったです。しばらく無言を貫き通していたわたしは、水たまりの隣をすり抜けて無視して通りました。「美羽ちゃんー、待ってくれよー」と必死についてくるお父さんを、これ以上気持ち悪いと思ったことはありません。

わたしのお父さんは、こんな人なんです。他にもわたしが友達と鬼ごっこをしていた時に転けて足を擦り剥いたまま家に帰った時なんて、「誰だ、美羽ちゃんにこんなことをした奴はッ！おのれ、許さんぞッ！」と形相を変えて遊んでいた公園に行き、他の友達に叫びだしたのには涙が出てきそうでした。あとは、友達と遊ぶときにはいつも後ろについて来るとか、もうそんな歳ではないのにわざわざ夕食で焼き魚になったら「美羽ちゃん、魚の骨とってあげようか？」と言い出して、わたしがOKしてなくても骨を、しかも細ーいそれなら食べれるんじゃない？という骨をとってくれます。本気で、嫌です。どうにかして欲しいです。

しかしこれまた不思議なことに、お父さんの欠点はそれだけなんです。

過保護すぎるというのが唯一の欠点なんです。

お父さんはまだ三十四歳という若さで、もう会社の社長さんです。なんでも人をまとめるのが上手くて、自分自身もテキパキ仕事をこなすとか。他にはスタイルと、そして顔もいいです。別にわたしのお父さんだから特別視している訳ではなく、何故かカッコいいのです。青ぶちのメガネも様になってます。性格も温和でやさしく、しっかりとしています。まるで完璧人間のようです。

でもわたしのお母さんが死んでからは、わたしに必要な以上に過保護になりました。もう大切な人は失いたくないという心の表れなのかもしれません。

ほんとうはお父さんは、心優しい人なんだと思います。夜中目が覚めてわたしがリビングに降りたとき、お父さんとお母さんとわた

しが三人で写っている写真を見ながら優しく微笑んでいるお父さんの姿を見たら、そう思わずにはいられません。あの温かな笑みは、わたしの好きなお父さんの表情です。

えーと、前置きが長くなってしまいました。これでどれだけお父さんはもったいない人・・・、いえ、過保護な人なんだろうと分かってもらえたと思います。お父さんはこのように過保護な人だったので、わたしは小5にもなりながら、一人でおつかいに行ったことがありますでした。なのでわたしは「おつかい」に憧れを抱いていました。今まで幾度となく頼み込んできました。しかし結果はNO。ことごとくすべて断られてきました。

しかし今日！

なんと今日、ついにそれが叶えられる時がやってきたのです！
今まで頑なに首を横に振らなかったお父さんから、許しをもらうことができたのです！

そんな訳で、今わたしは胸を躍らせていました。だって楽しみなんだもん！と『だもん』をつけて言えるくらいに楽しみでした。この際、お父さんが後ろから隠れてわたしのことを覗っていたとしても構いません。ただ初めてのおつかいができる、それだけで嬉しいのです。

わたしは気持ちよく玄関の扉を開き、外に出ました。ちょうど開けた瞬間、風がビューと吹き上がります。なんかいいね！こういう雰囲気いい感じだね！さらにテンションが上がっていくわたしは、ふと大切なことに気がつきました。

あれ、どこにおつかいに行くんだっけ？

お父さんからもらった店への地図を改めて探します。あの時はあまりの嬉しさで地図どころじゃなかったからなあ・・・。ポケットに、ん？と引っかかる物があり取り出してみるとくしゃくしゃに

なった地図でした。あれま、ちゃんと扱ってなかったからこんなことに……。やれやれと少しだけ反省したわたしは早速地図を広げってみました。

さーて、どこかな？

わたしは地図を、真顔で見つめます。

地図に書いてあったおつかいの行き先は、わたしの家の隣でした。

（後書き）

評価や感想をしていただけると嬉しいです。

飛び上がります↑

誤字脱字、あるいは辛口コメントなどでもよろしく願います m
（ ） m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2337t/>

過保護なお父さん

2011年5月13日18時10分発行